

令和8年度 江戸川区立西葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○考える子（重点目標） ○心豊かな子 ○たくましい子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○児童が明るく元気に学び合える学校（子どもが通いたい学校） ○保護者が安心して子どもを任せられる安全な学校（保護者が通わせたい学校） ○地域に開かれ、地域から信頼される学校（地域が応援したい学校） ○教職員が笑顔で共育・協働し、自分の力を発揮できる学校（教職員が働きたい学校）	
前年度までの本校の現状	成果	・説明資料を作成して公開したことで、地域や保護者に学校の取組について、分かりやすく伝えることができた。 ・ベーシックドリルの取組を通して、基礎的・基本的な学力を着実に定着させていくことができた。	課題	・組織的な対応による不登校の未然防止 ・教員の専門性を生かす指導体制の充実による、より一層の学力の向上	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	＜基礎・基本の定着に向けた取組の充実＞ ①東京ベーシックドリル・区学力定着度調査の取組 ②家庭学習の充実に向けた取組	①東京ベーシックドリル、区学力定着度調査の結果の分析に基づいて、苦手分野への課題配信と放課後補習教室への参加を促していく。答案の即時返却と解説をする。 ②江戸川っ子study week!では、苦手分野の課題配信をする。学期に1回の実施をする。	①算数ベーシックドリル・学力定着度調査で80%以上の児童が、正答率80%以上（低学年は90%）達成。 ②児童アンケート「家庭学習にしっかりと取り組んでいる」90%以上	A		A	①2年57%、3年63%、4年62%、5年63%、6年70%だった。2学期以降の正答率が上がるように、1学期のテスト結果の分析と復習を行っている。 ②児童アンケート「家庭学習にしっかりと取り組んでいる」の肯定的回答は89%だった。夏休みには、自分の苦手なことや目標に応じて課題を設定する形で実施をした。家庭学習に移行していけるように、引き続き各学年で工夫して取組を行い、共有していくようにする。	A	家庭学習について、自分で計画をして学習を進めていくためには、一人一人に対するより細やかなケアや保護者との連携が必要になってくる。 また、教員一人一人がこれまでのやり方に囚われることなく考え方を転換していくことが必要である。					
	＜教員の専門性向上＞ ①教員の専門性を生かす指導体制の充実 ②校内研究における、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進。	①中、高学年において教科担任制（理科・社会科）を実施する。教具やWSを共有し次年度以降にも使えるようにする。 ②学年を単位とした小グループでの主体的で実践的な校内研究を実施する。	①児童アンケート「教科担任制での学習は分かりやすい」85%以上 ②児童アンケート「すすんで学習に取り組んでいる」85%以上	A		A	①児童アンケート「教科担任制での学習は分かりやすい」の肯定的回答は94%だった。引き続き、充実した学びに向けて、担当間で教材研究を行っていく。 ②児童アンケート「すすんで学習に取り組んでいる」の肯定的回答は90%だった。子供自らが学びをすすめてけるよう、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいく。	A	子供も大人も主体的に考えて、行動していくことが求められている。様々な子供がいる中で、一人一人に寄り添って行くことが必要である。					
	＜読書科の更なる充実＞ ①読書に親しむ環境づくり ②読書を通じた探究的な学習の充実	①(1)学校図書館の環境整備をする。 ②読み聞かせて使用した本を紹介する。 ①(3)西葛西図書館の団体貸し出しを利用して、様々な本に触れられるようにする。 ②学校司書を活用する。	①児童アンケート「進んで読書をする」80%以上 ②全クラス国語科、読書科、社会科、総合的な学習の時間等で年間10時間以上の調べ学習実施	B		B	①児童アンケート「進んで読書をする」肯定的回答の結果は81%だった。「保護者による読み聞かせ」で読んだ本は図書室前廊下に掲示して紹介をした。引き続き子供たちが読書に親しめるよう家庭との連携を行っていく。 ②1学期終了時点の読書科の実施状況は、各学年3～5時間を実施した。2学期以降、各学年において読書科の時間で探究的な学びができるようにしていく。	B	(学校評議委員会では、6年生の日光についての探究的な学習のまとめを見ていただいた。)6年生の学習の成果に感心した。					
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ①問題解決的な学習と運動量を確保した体育科の授業改善 ②体力テストの取組 ③江戸川っ子なわ跳びウィークの取組	①定期的に実技研修会を実施する。 ②体力テストの結果の分析に基づいて、単元計画や授業改善を行う。 ③なわ跳びウィークを年3回実施する。	①児童アンケート「体育の授業は楽しい」85%以上 ②体力テスト各種目の平均点において全ての種目で区平均点以上 ③児童アンケート「なわ跳びに楽しく取り組んでいる」80%以上	A		A	①児童アンケート「体育の授業は楽しい」の肯定的回答90%だった。実技研修会は2回の実施をおこなった。後期も、体育部の教員を中心に実技研修を行っている。 ②1学期に体力テスト実施した。結果が返却され次第授業改善に繋ぎさせていくようにする。 ③なわ跳びウィークでは、音楽を流し、楽しそうに取り組んでいる子供たちの様子が見られた。児童アンケート「なわ跳びに楽しく取り組んでいる」の肯定的回答は72%だった。日常的な運動につながるように取組や指導を検討していく。2学期以降、「西小ダンスダンスタイム」の取組を通して体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。	A	(学校評議委員会では、西小ダンスダンスタイムの様子を撮影した動画を見ていただいた。)教員も一緒になって楽しそうに取り組んでいて、より取り組みである。講師の学生にも良い刺激になっていると感じられる。					
	＜地域の伝統文化との共生＞ ・江戸川区と関連深い相撲行事の取組。	・「わくわくすもう教室」や「わくわくすもう大会」に向けた学習と行事の実施を通して、体力とすもうへの関心を高められるようにする。	・児童アンケート「体を動かすことが好き」90%以上	A		A	児童アンケート「体を動かすことが好き」の肯定的回答は89%だった。1学期のすもう大会を通して、相撲への興味・関心を高めることができていた。	A	(学校評議委員会では、わくわくすもう教室の写真を見ていただいた。)例年の取り組みがしっかりと継続している。					
	＜健康の増進＞ ①食に関する指導の充実 ②歯を磨く習慣の定着	①給食時の味覚の指導や食材の紹介をする。 ②給食後の歯磨きタイムの設定とフッ化物洗口の実施する。	①給食を楽しくおいしく食べている85%以上 ②保護者アンケート「歯を磨く習慣が身についている」85%以上	A		A	①児童アンケート「給食を楽しくおいしく食べている」の肯定的回答は96%だった。 ②保護者アンケート「歯を磨く習慣が身についている」の肯定的回答は89%だった。フッ化物洗口を計画的に実施することができた。	A	残食率が26%減少したことはすばらしい。児童が歯を磨く習慣が十分に身に付いていない児童には、家庭と連携して進めていくべきである。					

